

2013 年度 センター試験 理科総合 B (本試験) 分析

全体概況

試験時間 60分

大問数・解答数	大問数：4 題	解答数：29 問
難易度の変化（対昨年）	難化 やや難化	変化なし やや易化 易化
問題の分量（対昨年）	増加	変化なし 減少
出題分野の変化	あり	なし
出題形式の変化	あり	なし
新傾向の問題	あり	なし

総評

大問 4 題（各 25 点）という形式に変化はない。第 2 問の解答数が 1 つ増えたため、全体の解答数は 29 になった（一昨年に戻った）が、問題量増加というほどの違いはない。難易度も、昨年同様であった。

例年通り、身近な自然現象に関して、「資料を調べて読み解く」「実験方法を考える」「実験や観察を行う」「実験や観察の結果を整理して考察する」といった、理科総合の趣旨に沿った特有の出題がされている。決して難易度が高いわけではないが、自然現象に興味を持ち、日ごろから考える習慣が身についていないと取り組みにくいであろう。

大問別分析

大問	出題分野・テーマ	配点	コメント
第 1 問	身近な環境の調査 A 岩石の分布 B 植物の分布	25 点	A 「川沿いの礫に関する分布調査」を題材とした問題。調査方法，結果の解析，岩石の性質，地質時代。 B 「河原と林床の植生調査」を題材とした問題。区画法に関する調査方法と結果の解析，外来種の特徴。 全体的に、表やグラフを読み取る問題が多いが、データは読み取りやすく、難しくはない。
第 2 問	太陽系 生物の進化 現在の生物種	25 点	問 1～問 3 太陽系に関する問題。太陽系の形成，惑星星の特徴。 問 4～問 6 生物の進化に関する問題。カンブリア紀の特徴，陸上への進出，新生代の進化。 問 7 現在の生物種に関する問題。生物種の割合に関するグラフの読み取り。
第 3 問	天気の変化 二酸化炭素濃度の変化 植物群落の遷移	25 点	問 1～問 3 天気の変化に関する問題。前線の性質，大気循環。 問 4・問 6 二酸化炭素濃度の変化に関する問題。類似のグラフが 2 回出題されており、いずれもグラフの読み取りであるが、問 6 の方がやや難しい。 問 5 植物群落の遷移に関する問題。群落の特徴，遷移の順序。
第 4 問	A 火山 B 紫外線の影響	25 点	A 火山に関する問題。火山と人間の関わり，グラフの読み取り，噴火被害の広がり，降灰マップの読み取り。 B 紫外線の影響に関する問題。オゾン層の形成，植物への紫外線照射の影響。